

自分をみがき上げる20分

意志を貫く力

どれだけ無言で

気づく力

どれだけ見つけて

気配りの力

どれだけ人のために

そうじができるか。

物部中の新しい伝統を築いていこう。

■ 無言で清掃するとつく力「意志を貫く力」

集団であるにも関わらず、無言で掃除することで得られるものの一つは「意志を貫く力」です。友達と清掃をしていると、つい話をしたくなってしまいます。その時に、「無言清掃を実行しよう」と最後までやり遂げるのか、「我慢できずに話をしてしまおう」と途中で投げ出してしまおうのか、たったそれだけの行動の中にも、その人の意志の強さが表れます。人に流されず、自分の信念を持って清掃に取り組む姿勢は、夢や目標を達成する上で大切な意志の強さを育てます。

■ 無言で清掃するとつく力「気づく力」

無言で集中して清掃すれば、自分の与えられた仕事はすぐに終わってしまうかもしれません。そのとき、「何をすればいいですか？」なんて、人に相談できないのが無言清掃。自分で考えて探さなくてははいけません。「どこかまだ汚れているところはないか」「もっと気持ちのよい教室にするにはどうしたらいい?」「他の清掃分担で、人手が足りないところはないかな」自分の担当が終わっても、最後の1分1秒まで仕事を探し通すことに挑戦する、考えて掃除することが、自分自身の「気づく力」を高めていくのです。

■ 無言で清掃するとつく力「気配りの力」

「気づく力」を使い無言清掃をしていると、自然と周りに目がいくようになります。どうしても一人でできないような仕事をしている友だちを見つけ、「あの机、一人では運べないな!手伝わなきゃ!!」と手助けをする。黙っていても、相手の気持ちを察することも大切。「バケツの水、汚れきったな…きれいな水にくみかえてこよう」と気を配る。「その場所を使う人が気持ちよく過ごせたらいいな」と想像しきれいにする。「気づく力」で見つけたことを、行動に移すことが「気配りの力」を育てます。思いは目に見えないけれど、思いやりは目に見えるのです。

たった20分の清掃ですが、無言でやることで「意志を貫く力」「気づく力」「気配りの力」この3つの力が磨かれると思えば、何かやる価値があるのではないかと感じます。さて、あなたは無言清掃に、どんな価値を見いだしますか?この話を参考に、無言清掃の意味をあなたなりに見つけてみてください。